

平成30年度 アドバイザー派遣事業 実施レポート

湯梨浜町立北溟中学校

【研究テーマ】 主体的に関わり、学びあう生徒の育成
～つなげよう、深めよう、みんなの思考～

【アドバイザー】 高知大学 大学院 鹿嶋真弓教授

【校内授業研究会】

<第1回校内研究会（協同学習研修会）> 教科：2年数学
平成30年5月11日（金）
指導助言：中京大学 国際教養学部 杉江修治教授

<第2回校内研究会> 教科：1年数学
平成30年6月29日（金）
指導助言：高知大学 大学院 鹿嶋真弓教授

<第3回校内研究会> 教科：3年国語
平成30年11月30日（金）
指導助言：高知大学 大学院 鹿嶋真弓教授

【第2回校内研究会】

<公開授業を振り返って>

・「Hyper-QU」の結果をもとにして、関わり合いをもって学び合えるような授業を参観し、研究を深めた。関わり合いを持って教え合う場面が多く見られ、問題に対して、全員で解けるようになろうという雰囲気があった。また、答えがあっていると、全員で拍手をする姿もあった。しかし、最後の「確認問題」では、自力で解ける生徒が目標の80%に達しなかった。「確認問題」までに、関わり合いを持って深まる話し合いにしていくことの必要性を感じた。

<指導助言より> 高知大学教授 鹿嶋真弓先生

○教師がどのように生徒を救っていくかがポイントになる。

- ・教師とつながる（良き理解者）：1割→安心できる
- ・教師がつながる（つなげ役になる）：9割→安全（例）楽しいときの拍手

○人間関係づくり⇒学級づくり

役割交流：学級内の当番活動

感情交流：行事で一つの事をする。エンカウンターで本音を出し合う。

知的交流：ひらめき体験教室（脳が汗をかくくらい考えを出し合う）

・学級集団づくりが「ゼロ段階」のとき・・・

- ①緊張を下げる
- ②他者に興味を持つ
- ③「すごい」を共有する

○自己開示とフィードバック

・活動後には「振り返り」→生徒同士がつながる

- ①「振り返り用紙」を書く（心が動くとたくさん書ける）
- ②教師が「つなぎ役」となり、書いたことを全員の前で紹介する（匿名にして）
- ③班でまわして読み合う

→プラスのフィードバックをするので、いい雰囲気になる。

【第3回校内研究会】

<公開授業を振り返って>

・「Hyper-QU」の結果をもとに、学びが深まる支援の工夫をした。「書くこと」が苦手な生徒への手立てとして、ペア活動で様々な考えを拡げていけるような、関わり合いを持って学び合える授業を参観して研究を深めた。意見交換をする場面が多く見られ、「やろう」という雰囲気があった。グループ活動を終えるとき、感謝の言葉を伝える姿があった。やるべきことが明確になっていたのも、目標に向かっての行動がとれていた。会話を通じて自己の考えを拡げようとしているので、「もう一回言って」「これってどういう意味？」という理解しようとする意欲的な発言があった。

<指導助言より> 高知大学教授 鹿嶋真弓先生

○ジグソー法の良さ

- ・課題、授業の流れ、時間配分が明確で、生徒にわかりやすかった。
- ・国語でもできるなんてすごいと思った。
- ・ジグソー法の良さは「異質性」。「異質性」をさらに高めるためには、ジグソーのグループをさらに分けてしていくと良い。
- ・「自分の意見」をもたせてから、意見交流をさせなければならない。

○どのような生徒を育てるか

・AIが、「できること」と「できないこと」とを分けることで、これからどの

ような子を育てなければならぬかがわかる。

- ・ AI ができないことは、
 - ①「課題を見つけること」 ②「ひらめくこと」 ③「問うこと」である。
- ・「思考のプロセス」を教えるのが教師の仕事（教科を通して）

○「問いを創る授業」（図書文化）より

- ・「不思議の種」を準備して（「どうして？」「なぜ？」と思うような課題設定）
- ・ディスカバリー（導入で発散指向）
- ・フォーカス（ねらいを明確にする）
- ・キープマインド（心にひっかかる）

<指導助言より> 中部教育局 加嶋慎一 指導係長

- ・ やることが明確→生徒が見通しを持って取り組めた。
 - ・ 自分の考えを持つことで、「やらされる」のではなく「やろう」という気持ちになる。
 - ・ 「教師の褒め言葉」「生徒同士のお礼」など、人間関係づくりができていた。
 - ・ 会話を通じて、自己の考えを拓けていた
- 「もう一回言って」「これってどういう意味？」という会話が良かった。
- ・ 対話的な活動をどこで入れていくかの、「単元構成」が必要になる。